

第二回 学校運営協議会会議録 (要点記録)

- 1 開催日時 2022年6月30日(木) 14時30分から16時00分まで
- 2 会議場所 芳川小学校 多目的室
- 3 出席委員 鈴木幸彦、犬居和賀代、林容子、佐藤祐輔、鈴木麻里
- 4 欠席委員 間宮年弘
- 5 オブザーバー 古橋一哲(南陽協働センター)
- 6 学校 澤田正樹(校長)、池端一容(教頭)、榛葉崇文(CS担当職員)、
内田由佳(CSディレクター)
- 7 教育委員会 鈴木陽子
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - (1) 議長の選出について
 - (2) 楽しい学校づくりについて
 - (3) 学校評価アンケートについて
- 10 会議録作成者 CSディレクター 内田由佳
- 11 会議記録

司会の池端から、委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出について

司会から、議長の選出について前回の協議において全員異議なく選任及び承認された旨の確認をした。

(2) 楽しい学校づくりについて

議長の指示により、校長から、プレゼン等に基づいた「楽しい学校づくり」について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

【楽しい授業について】

・楽しい授業を作るには授業の質の向上が課題である。教員の十分な準備時間確保が必要。そのために吹奏楽部の廃止を決定した（校長）

・廃止の前に OB 等と共に演奏会が可能か検討中（校長）

→吹奏楽部については、先生方の負担を減らし外部委託など選択の余地があるといいのでは（佐藤）

・読み聞かせ…毎週火曜 8時

教室の実態は読み聞かせを始められる状態にない。

教員は8時が始業であるので読み聞かせが時間通り始まらない。

8時前に聞く状態にしてくれるボランティアの存在の模索（校長）

・事前に読み聞かせの時間に臨む姿勢を整えるのは、事前に教師が伝えるだけでよいのでは。子どもたちの自主性を育成できるのではないか（鈴木麻里）（林）

・始業前のやるべきことが多くあるのは子どもも同じ。読み聞かせ前の環境をつくるのは工夫次第。プレート等を作り、子どもたちが自主的に準備を進められるような意識付けがあるとよい。（鈴木麻里）

・あいさつ運動時（5/23）に授業が楽しいかのアンケート（シールを利用）を約30名から聞いた。「楽しい」13名 「どちらでもない」13名 「楽しくない」4名（佐藤）

・曜日によって楽しい（佐藤）

・6月 「楽しい」18名 「どちらでもない」8名 「楽しくない」4名（佐藤）

→授業が楽しいかどうかは子供に聞くのがよい。しかし絶対ではない。繰り返し聞いていく中で本質にかかわる楽しさが何か分かっていく。（校長）

→問題解決を子供たちに解決案を考えさせるということに発展してもよいのでは。

楽しかった授業はなに？などどのように楽しかったのか？ためになっているのか？などの質問もよいのでは？（鈴木麻里）

・雨の日の駐車場で怒号が飛び交うことはどうしたら解決できるかなど。（鈴木麻里）

・授業について。学級の中に仲良く楽しく学校経営計画の中にあるコミュニケーションの授業の中でお互いに楽しく安心して意識していくことにつながる。（林）

・子供がこういう授業が理想だという目線。子どもたち自身で作った具体的な指標がでるとよいのでは（林）

・自分は何が楽しかったかを自問する、俯瞰して自己認識ができるのはよい（林）

【楽しい学校づくり】

・家で話が出来ていない子が話を出来る場としての学校であることは大きな意味を持つ。（犬居）

→現在進行中だが、この意見に賛同する（校長）

・主体性をもたせる集団登校の在り方を要検討（犬居）

・学校支援コーディネーターとして活動している（鈴木麻里）

主観だが、名称に「ボランティア」がはいると無機質な印象をもつので、芳川小の子たちの愛称をつけるなど、「応援団」という名称をつけてボランティア組織を設けるのはどうか（鈴木麻里）

名称は未定だが、「芳川きらーん応援団」「くすのき応援団」など今後検討していく（鈴木麻里）

→子どものために何かしたい人たちが近づきやすい。（林）

・内容として

→登下校見守り、始業、昼休みの見守り。授業の手伝い（ミシン等）、地域の文化歴史の講義など。（鈴木麻里）

・その人材については協働センターにも相談に乗ることができる（古橋）

・ふれあい週間について

宿題がない。教員側も採点等の付帯業務の時間に子どもたちと触れあえる。

子どもと話すきっかけとなっている。親でも 15 分間子どもと話すことが大変であることを実感した（佐藤）

宿題を促す言葉掛けをするストレスがない。(鈴木麻里)

→逆に子どもから自主的な勉強の姿もでてきた(鈴木麻里)

【その他】

・朝の送迎について、子どもに投げかけてみるのは良い考え。(林)

・集団登校は以前から子ども同士で安全を考えてきた。(林)

・集団登校の様子が変わってきている。まとまって登校班で歩いていないことがみられる。(林)

→集団から離れているケースがよく見られる。(佐藤)

・芳川小はクスノキがシンボルツリーとしてある学校。クスノキに関するイベントがあるとよい。(林)

・地域の者が子どもの意見、知恵を利用する。楽しかったことだけでなく、一週間の中で問題点があったかを聞きとるとよいかもしれない。そこでボランティアの出番につながることもあるかもしれない。

(犬居)

・本日の Fumiya 氏の講演などを通して、子供と一緒に学べる機会があるのは良い(鈴木陽子)

(3) 学校評価アンケートについて

議長の指示により、主幹教諭から別紙資料に基づき、学校評価アンケートについて説明があり、委員から以下の発言があった。

別紙計画等の資料により説明があった。

・子どもアンケートに出席番号の記入欄がある。17として自由記入欄を設けたらどうか。真に困っている子の受け皿になるのではないか。(佐藤)

→生活アンケートに自由記述を設けているが検討する。(主幹)

・アンケートについて

教育総務課鈴木氏より、別紙「令和4年度学校運営協議会自己評価の実施と結果等の報告について(依頼)」等の資料に基づき説明があった。

・「浜松市学校運営協議会規則(令和元年浜松市教育委員会規則第2号)」の第8条にあるように、本協議会が学校評価にかかわってもらう視点で今後、話し合ってもらおう。(鈴木陽子)

・今年度は学校のことを知ってもらい、徐々に熟議を成熟させていってもらいたい。(鈴木陽子)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

司会から、次回会議は、2022年10月24日（月）14時30分から多目的室で開催する旨の報告があった。議題は引き続き「楽しい学校づくり」をテーマとし具体案の一つとして、「ほうがわクスノキ応援団（仮）」の設立にむけて等とする。

次回は鈴木麻里氏が議長を務める。